

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	6			- 各部屋の使い方が、利用者さんや職員に定着して居心地が良い。 - 部屋がいくつかあるので障害特性別や年齢別に分けることができる。 - 活動目的に応じて個室を使用する等している。
	2	職員の配置数は適切であるか	1	5		- 普段の支援では十分足りているが、送迎や病休時にデイの職員だけでは対応が難しい時がある。 - 配置数は満たされているが、余裕がない状態となっている。 - 研修や担当者会議がある際、現場が手薄になるので参加しづらい。 - 職員配置基準は満たしているが、個別対応をしなければならない利用者さんもいるので、十分とは言えない部分もある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	2	3	1	- 玄関に段差があるので車椅子の乗り上げはできない。 - 対処できる部分は工夫しているが、建物の構造上の問題や備品の大きさ、形など対処が難しいこともある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか		6		- 職員間の認識、見解等に相違があり同じ方向性を持つことが難しい時がある。 - 異なった意見をしっかりと聞き、職場にとって何が必要なのか、足りないのか、強みは何か等職員一同で考える姿勢が必要。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	4	2		アンケートを基に、解決できる問題もある。どうしても現状で解決困難なことは、保護者にご理解いただくこともある。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	5	1		- 掲示板に結果を貼っている。 - 家族懇談会で結果と改善策について報告している。 - ホームページでの公表を予定している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			6	外部評価はしていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	6			- 月一回外部講師を招き、ケース検討をしている。 - 職員にとって必要な研修は可能な限り参加している。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	4	2		- ニーズや課題が目まぐるしく変わり、分析するのが難しい。 - モニタリングをし、それを基に保護者と課題について話しをしている。 - 利用者さんとたくさん話しをしている。好きな事や興味のある事、今後必要となる力は何か、また保護者からも要望を聞き、総合的に計画に取り入れている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	1	4	1	- 子どもの様子等を把握するために、毎年保護者に必要項目を記載してもらっているようにしている。 - アセスメントシートは事業所独自の様式を使用している。必要な情報をより分かりやすく、また振り返りにも活用できる様式の見直しが必要。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	5	1		- 皆でよく話し合っている。 - チームで立案しているが、具体的な案まで進まないこともある。 - 職員間で話し合いも行うし、担当者がイベント等の計画を立てるので、それを基に活動プログラムを立てている。

適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	3	3		・利用者さんの様子を見ながら変えている。 ・職員会やケース会で見直しや話し合いを行っている。 ・イベントや活動内容の見直しなどを行っている。 ・活動について個々に応じたプログラムを考えているが、変化を嫌う、また習慣付けるためにあえて固定化することもある。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	5	1		・利用者さんが飽きないように活動に配慮している。 ・職員会で課題やイベント等について決めている。 ・利用者さんが嫌にならないようにメリハリをつけた活動を意識している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	6			・その都度対応できている。 ・集団活動は重度に合わせて、個別活動は個人のレベルに合わせている。 ・その日のコンディションに応じ、個別か集団かの配慮が必要な場合は対応している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	5	1		・送迎や活動について、今日注意すべき点や利用者さんの状況確認をしている。 ・午前中の空き時間に話し合いをしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	3	3		・引継ぎノートを利用し、申し送りをしている。 ・全員が一度には難しいので、必要場合は翌日に振り返りをしている。 ・緊急性があるものは臨時にケース会を開き、話し合いを持っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	4	2		・問題点があれば児発管を交え、どのように対処するか話し合いをしている。 ・支援記録は取っているが、検証は十分とは言えない。書式の見直しも必要。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	6			・日々の利用者さんの様子と計画を照らし合わせ、必要に応じて判断している。 ・必要な時期にモニタリングや計画の見直しを行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	3	3		・利用者さん個々に応じた支援の他に、創作活動、ボランティアに来てもらってのイベント、余暇支援等、幅広い活動をしている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	1	4	1	・会議開催と利用者支援の時間が重なることが多く、現場の職員の参加が難しい状況となっている。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	2	4		・学校の連絡と保護者の連絡に誤差があることがあり、その都度調整をしているが学校によっては連携が難しいことがある。 ・下校時間の変更は学校から伝言される。行事等は保護者から連絡を受けることが多い。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	2	4		・今年度からは事業所において喀痰吸引を実施しないことになった。昨年度と状況が変わったので、最新情報の提示が必要。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	1	5		・児童発達支援事業の職員がデイサービスへ異動したこともあり、事業所間の情報共有はしやすい。保育園等との共有は出来ていない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	3	3		・今年度卒業生がいるが、現段階でいつ会議をするのか具体的に決まていない。 ・必要に応じて担当者会が開催されるので、その時に情報共有をしている。 ・今年度は関係者を呼んでの事例報告会を行った。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	2	3	1	・外部講師のとケース会を定期的に行い助言を受けている。また利用者さんの様子を実際に見てもらい、助言を受けることもある。 ・幡多地区の相談支援事業所や同業者に集まってもらい、地域の現状について何度か話し合いを持った。

	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか			6	・障害のない子どもとの交流はなかった。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか		2	4	・管理者が出席している。児発管や現場の職員は参加したことがない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	4	2		・迎えの際や連絡帳等で伝えている。 ・子どもに対して現状の能力以上を求める、また職員との見解が異なる場合がある。保護者に担当者会議等に参加をしてもらい共有を図ることもあるが、納得してもらえる説明や支援の組み立てが難しい場合がある。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		4	2	・保護者から困っている話が出た時にアドバイスすることしかできていない。 ・学童期では親と子どもの関係性が出来上がっていて、対応が難しいことが多い。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	4	2		・その日の支援内容について現場職員が説明をしている。その他は管理者や児発管が説明をしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6			・主に保護者の話を聞くことが中心となっている。保護者からは聞いてもらえてスッキリしたという意見が多い。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	4		2	・父母の会や、父母の会主催の研修会に参加する事もある。保護者の困り感を聞くようにしている。 ・家族懇談会は年に2回開催をしている。参加者が少ないので開催の日時や方法等について検討が必要。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6			・すぐに管理者に報告し、報告書作成、謝罪、今後の対応等について話し合っている。 ・案件にもよるが、速やかな全体への周知はしていない。家族懇談会で報告するようにしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	4	2		・センター通信を通じ、行事の事、活動について知らせている。今年度は年3回の発行だった。
	35	個人情報に十分注意しているか	6			・外部に出ないように注意をはらっている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	4	2		・保護者の思いを聞いて受け止めるよう努めている。 ・利用者さんの頑張った事や出来た事を見つけ伝えるようにして、共に喜び合う事もある。 ・事業所で仕入れた情報は外部に出さない。悩んでいる保護者がいれば、保護者会への参加を促し、先輩保護者からのアドバイスを聞いてもらう。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		1	5	・現在、地域を巻き込んだ祭りを停止しているの、住民と関わることはほとんどない。ボランティアさんが祭りの中で利用者さんと関わってくれたことはある。施設で行った人形劇に他事業所を招待したこともある。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	1	3	2	・必要に応じて職員会で周知している。感染症においては、必要事項を保護者に発信した。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6			・入所施設と合同で訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	5	1		・支援の見直しを含め、外部講師にアドバイスをもらっている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	3	3		・身体拘束を行った事例なし。

	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		4	2	・食物アレルギーの除去食についての申し出がある子どもがいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	3	2	1	・事例集は作成しているが、どのような場合にヒヤリハットとするのか等、統一した見解は必要。